

保護司会連絡協議会会長賞

更生への近道

堺市立 平井中学校 三年

古根川 颯

「こんな事で、人生を棒に振るなんてね。」とコンビニ強盗のニュースを見て母が言った。私はなぜそう思うのか尋ねてみた。母が挙げたことは次のようなことだった。前科・前歴は何年経っても警察に記録が残り、黒子の位置などの身体的特徴や指紋も残される。

例え、たったおにぎり三個の窃盗で実刑となることもある。おにぎり三個なんて一日働けば購入できる。それなのに一時的な欲で窃盗をしまい仕事や信用をなくすのはもったいないと感じた。ほとんどの人はお金がなくても盗むという思考には至らない。

しかし、お金があっても窃盗をしないと限らない。世の中には、お金をもっているにもかかわらず窃盗を繰り返す「クレプトマニア」という病気が存在する。クレプトマニアとはどのようなものか調べてみた。すると、「金銭目的よりも、窃盗行為実行時の緊張感と成功時の満足感が目的」ということが分かった。その原因は、「ストレスや不安、寂しさを感じやすい性格」である。私は、ストレスがここまでの症状を引き起こすなんて現実味のない話だ

と思う。ストレスや不安は誰でも感じるが、罪を犯す程とはどのようなものか想像できない。

実刑になり刑務所に入れられてストレス等を感じないわけがない。私は小学生の時に大阪刑務所の見学に行ったことがある。刑務所内に入るとはとても怖いと感じた。なぜなら、周りは高い塀に囲まれており、至る所に鉄格子があった。中の空気は重たく、長くいたい場所ではなかった。そこでは入浴は週三回で洗面器二杯分で十五分間のみ、労働のわりに質素な食事。しかも常に監視・監理されている。このような生活は罪の償いとしては当然だが、更生となると全ての人に当てはまるわけではない。窃盗や薬物など依存症が原因となる犯罪にはあまり期待できないと思う。令和三年版の犯罪白書によると、窃盗罪で出所した受刑者が五年以内に再び刑務所へと収監された割合は満期釈放で五三・五％である。この結果を見ると、刑務所に入れられることが犯罪の抑止力になるとは思えない。

これまで述べたように、クレプトマニアは心の病気である。万

引きされたお店はおにぎり三個分の利益を出すためにたくさん物を売らなくてはいけない。だから、たった数百円分の万引きでも厳罰を望むだろう。今はどうしても罪に見合った刑を下すし、それが当然だと思う。でも、中にはクレプトマニアのような精神的な病気でやめたくてもやめられない人もいる。その人たちの再犯をなくすためには適した治療が必要である。刑務所は罪を治療する場所にもなってほしい。そうすることで、クレプトマニアの人以外にも、薬物などの依存症が原因の犯罪にも対応できるのではないだろうか。

依存症は個人の力でコントロールできるものではない。家族などの支えが必要になってくる。そのような支えもなく、社会と刑務所を行ったり来たりして、一人で苦しんでいる人もいるだろう。だからこそ、一刻も早く治療を優先させることが更生への近道だ。

